

令和4年度 第1回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和4年8月26日（金）午後2時から午後3時10分

開催場所 さいたま市立博物館 講座室

出席者名 委員：江里口友子委員長、新美和子副委員長、小宮るり子委員、杉山正司委員、鈴木樹子委員、野田和美委員、橋本正晴委員、広田由子委員、牧野麗委員、丸井章弘委員、鈴木和博委員、清水俊彦委員
（欠席：中村大介委員、初音みね子委員、宮瀧交二委員）

事務局：博物館長、博物館長補佐兼事業係長、同管理係長、同事業係主任、浦和博物館主幹、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査

傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和4年度第1回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和4年度第1回さいたま市博物館協議会

博物館管理係長の司会により開会し、博物館長及び委員長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議 事

- 議長 それでは議事に入ります。最初の議題の令和3年度事業報告について、委員の皆さまから御意見や御質問がありましたらお願いいたします。
- 杉山委員 全体の入館者数も令和2年度に比べて令和3年は非常に盛り返してきているように思います。講座の参加者が、前年度に対してどのようなものだったのか、増減が分かると委員も意見が言いやすい。参加者数が伸びたものは定員や回数を増やすとか、少ないものは減らして違う内容のものに替えるなど、今後の指針になると思いますので、次回から報告をお願いできればと思います。
- 事務局 令和3年度は、どの講座もコロナ禍において定員を通常の半分に減らして実施していましたが、今年度はその状況を解消し、令和3年度の倍の定員で行うものも増えております。来年度は、令和4年度と3年度の比較を報告できると思います。
- 議長 何かご意見やご質問がありますでしょうか。
- 丸井委員 資料の備考欄の令和3年度の入館者数は、昨年度の同時期開催の展示と比べて、という意味ですか。
- 事務局 企画展「さいたま八景」は、年度をまたいで開催しており、入館者数欄は期間全体の入館者数、備考欄は令和3年度の入館者数になります。
- 新副委員長 企画展「赤山洪」の展示解説を聞きましたが、参加された十数名の大体がシニア世代でした。終わった後に皆さんとても満足そうな顔をされて

帰られていました。前回の協議会で、学芸員の顔が見えるイベントを、という意見の通りで、博物館のファンを増やす、ご理解いただく方を増やす、良い試みだと思いました。前回は3日間の開催でしたが、今後増やす構想はありますか。

事務局 企画展「赤山渋」では午前午後1回ずつで3日間、計6回実施しました。今秋の特別展でも6回行う予定でおります。チラシ等に掲載して広報するのは6回ですが、来館者から質問や要望があればその都度対応をしております。

広田委員 ツイッターを利用して学芸員が質問に答えるような双方向のやり取りは考えていますか。

事務局 現状、市の広報のツイッターを利用して博物館の職員が情報発信をしていますが、双方向性になっておらず、こちらからの発信のみという形で運用しています。そのため、今後の課題として検討していきたいと考えています。

広田委員 博物館入館者数について、増減幅の大きいところと小さいところの傾向や原因はありますか。

事務局 新型コロナウイルスによる臨時休館があった令和2年度と令和3年度の比較は難しいですが、どの程度回復してきたかについては、令和3年度と4年度の比較で明らかになると思います。昨年リニューアルオープンした浦和博物館は、新しくなった状況を見るという方がいた影響で増えたのではないかと考えております。それ以外の館については事業の内容によって来館者の増減があると考えております。令和3年度はどの館も入館者数が回復していることが読み取れるかと思えます。

小宮委員 夏休み子ども博物館の講座を見ましたが、どれも参加してみたいと思うような企画でした。企画展「赤山渋」はシニア世代が多かったとのことなので、敬老の日の前後に「シニア博物館」のような催しもやってほしいです。

事務局 平日の来館者はシニア世代が多く、社会科見学を除くと子どもたちが博物館に足を運ぶ機会が少ないので、夏休みや春休みにイベントを企画し、来てもらえるように取り組んでいます。企画展「赤山渋」はシニア世代の中でも市内在住者の割合が高い傾向にありました。「赤山」という隣の川口市の地名をタイトルに採用した関係からか、従来の展示と比べて川口市在住の来館者も多い傾向が見られました。

広田委員 「シニア博物館」はとても良いアイデアだと思います。それに関連するように働く世代は博物館との接点がないというのがありまして、ナイトミュージアムのような仕事帰りにふらっと寄れたりするような企画はいかがでしょうか。開館時間を延ばしたりすることの課題はあるとは思いますが、もしくは対象を敢えて絞って企画をするということはどうなのでしょうか。

事務局 博物館の開館時間は条例で決まっておりますが、臨時開館をしている日もございます。例えば今年の「県民の日」は休館日の月曜日にあたって

いますが、臨時開館をして1日通常の開館時間でオープンします。閉館時間について、現在午後4時30分のところを延長できるかにつきましては、今後研究していきたいと思います。

新副委員長 働き方改革を言われている中で、学芸員の方々も時間外勤務など様々なことを抱えていると思いますので言いにくいのですが、子どもだけでなく大人もといったような企画があれば嬉しいなと思います。

議長 様々な意見が出たところで、創意工夫をしていただいて、事務局の取り組みをよろしく願いいたします。続いて、次の議題、市立博物館収蔵品展について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 市立博物館収蔵品展についてご説明いたします。この時期は、昨年度まで企画展を行ってきましたが、今年度は収蔵品展として、博物館に収蔵されている資料を活用した展示を行うとともに、期間も延長します。会期は、令和5年3月4日から6月11日までの100日間のうち、開館日数81日間を予定しています。テーマは仮題ですが、「余暇の楽しみ」を内容とした展示を予定しております。収蔵資料の中で、生業に関する資料は数多くありますが、趣味やレジャーに関わる資料も多くございます。そのため、今回はそれらの資料を中心とした展示を考えております。展示構成ですが、導入では、いわゆる「余暇」の概念がいつ頃から始まったのかを紹介します。収蔵資料の傾向に合わせた方向性ではありますが、音楽、劇場、観光旅行、オリンピック関連資料という、大きな4つの展示構成を考えています。また関連事業といたしまして、博物館学芸員による展示資料の紹介を兼ねた講座を1回、展示解説を6回考えております。今回、開催期間を長くとりましたので、展示解説をもう少し増やせないか、検討しています。以上でございます。

議長 開催時期はもう少し先なので、検討の余地もあるかと思いますが、非常に身近なテーマですので、委員の皆様からご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

鈴木樹子委員 開館日81日間のうち、関連講座1回と展示解説6回で、もう少し増やしたいというお話もあったのですが、もう日程も決まっていますか。

事務局 まだ日程までは決まっておりません。

鈴木樹子委員 展示解説の日に聞きに行けなかった場合でも、展示見学中に学芸員に展示解説をお願いすることはできますか。

事務局 当日出勤している職員によって十分な対応ができない場合もありますが、お声がけいただければできる限りの対応をいたします。

鈴木樹子委員 埼玉県立歴史と民俗の博物館の解説ボランティアのように、その場に立っていたら声をかけやすいのですが、市立博物館にはそのような案内がないのでそのまま帰ってしまった話も聞いております。何か案内があれば声かけをしやすいかなと思います。

杉山委員 この博物館の収蔵状態は分かりませんが、収蔵資料を活用する意味で非常に良いと思います。収蔵品展をすることによって、こういう物も寄贈できるのだと市民に分かってもらえて、今後収蔵資料が増えるきっかけ

けに繋がると思いますので、定期的を開催するのが良いと思います。埼玉県立歴史と民俗の博物館では2年に1回開催し、寄贈者の方にも来ていただいて感謝状贈呈もしています。そのような取り組みもしたほうが良いかと思います。また、市立博物館の収蔵品展の展示構成は非常に良いと思います。博物館という場所は余暇の楽しみをする場所でもあるので、項目の1つとして博物館も入れて、博物館も楽しい所だということをお伝えられると良いのかなと思います。博物館は楽しい所ということで新たな来館者の開拓に繋がるのではないかと思います。

事務局 今お話がございました、博物館がどのような形で発達・発展したのかということも、資料をもとに復元できる可能性もございますので、ご意見を参考に検討したいと思います。

議長 収蔵品展を紹介する時や寄贈を受けた時に、どのような流れで寄贈し、それがどうなるか、というパネルを作成して紹介するコーナーを作ったことがあります。そうすることで来館者が寄贈までの流れや展示までの流れを知るきっかけになるので、収蔵品にまつわる部分も入れると良いかと思います。

小宮委員 川崎市民ミュージアムが、2019年の台風で浸水した資料の修復作業を未だに行っているという話をテレビで見たのですが、さいたま市の場合大切な収蔵品は普段はどこに保管されているとか、そういうことも教えていただくと良いかと思います。また、さいたま市に文化財シェルターはあるのでしょうか。

事務局 文化財シェルターはございませんが、博物館各施設とも、それぞれの規模に応じて資料を寄贈いただいております。市立博物館では、寄贈資料を2階の収蔵庫で保管し、地下1階の常設展示室での展示を行っております。常設展示室は年に数回展示替えを実施しております。

広田委員 学芸員の展示解説は対人で、タイミングが難しいと思うのですが、映像による補足説明を用意する予定はありますか。また、余暇というのは、人によって、平日の仕事終わりの数時間が当てはまるかもしれないし、休日丸々1日も当てはまるかだと思います。今回の展示では、どれくらいの規模を念頭に置いているのでしょうか。

事務局 収蔵品展なので収蔵資料の範囲で表現するという制約はありますが、1日の隙間時間に楽しむもの、1日ないしは数日かけて楽しむもの両方含めて余暇だと考えています。

広田委員 現代では週休2日が当たり前のようになっていますが、数十年前だとどうなのでしょう。労働関係の法令や歴史を含めて、余暇の扱いが変わってきていると思うのですが、博物館に馴染みのない人が何かヒントを得たいと思うテーマだと、そういう人も足を運ぶのかなと思いました。

事務局 タイトル、サブタイトルにつきましては、現在検討中です。ご意見をふまえて、ポスターを見た時行ってみたくなるようなタイトルを考えます。

議長 小学生がこの展示に来たいと思うようなアイデアはありますか。

鈴木和博委員 この展示はどちらかと言えば大人の余暇ですね。子ども向けだと昔の

おもちゃとか昔はやったものを中心になるかと思いますが、余暇という言葉そのものが小学生には難しいかと思います。そのためこのタイトルでは、少しターゲットが違うのかなという気がします。

議 長
事 務 局
議 長
清水委員

題名のつけ方次第で子どもたちが行くようになるのでしょうか。

そうですね。そこも含めてタイトルを考えたいと思います。

中学生だとしたらどうでしょうか。

中学生の余暇は部活動のない休日になると思うので、その休日を使って行ってみたいと思える誘い文句等があると良いかと思います。小・中学生は、まだじっくり展示を見るというよりも、夏休みの体験講座のように何か体験できる場面があると、行ってみる気になるかもしれません。

広田委員

そうだとすると、授業の一環で余暇を扱って、自分たちの勉強したことも博物館の展示に繋がるんだという、そういったような繋がりを通して小・中学生に興味をもってもらうことはできますか。

新副委員長

スポーツも余暇の範囲なので入れていただけると良いかと思いますが、特にさいたま市はサッカーが盛んなので、その歴史にも小・中学生には興味をもってもらえるのではないかと思います。今、大谷選手の活躍で話題のベーブブルースも、昭和9年に大宮に来て試合をしているので、このあたりの話を絡めれば、子供たちに興味をもってもらえるのではないのでしょうか。

小宮委員

浦和博物館の建物は、浦和レッズのエンブレムのことで関係があるのですよね。スポーツを展示に入れるようでしたら取り上げてほしいです。

新副委員長

浦和レッズも前身の歴史があるわけですから、それを取り上げたら子どもたちも喜ぶのではないかと思います。

議 長

与野郷土資料館では、以前サッカー関係のミニ企画展をしていますが、反響はいかがだったでしょうか。

事 務 局

川島永嗣選手は与野八幡小学校、与野西中学校出身なので、児童、生徒が見に来ていました。

議 長

展示資料の中に蓄音機とありますが、手回し蓄音機はありますか。

事 務 局

今回展示を予定しているのは、ゼンマイ動力で電気を使わないタイプの蓄音機です。手回しの蓄音機は、収蔵資料の中にはあるかと思います。

議 長

もし手回し蓄音機を回したり、音が出たりすれば、小学生も珍しいでしょうから、昔のレコードを聴いてもらう機会があれば良いと思います。

丸井委員

内容を見る限りでは、小・中学生向けではなくて、高齢者向けで、私たちが使っていた物が展示される感じがします。ターゲットを絞るのだとしたら、市内のシニアの団体を中心にPRできれば、来館する可能性は高いのではないかと思います。

小宮委員

PRするようでしたら、ねりん大学などといったような、高齢者の大学があります。

事 務 局

シニア世代が多く利用する場所に、ポスターやチラシを多めに送付するなどして対応しようと考えております。その際、シニア大学などの学習団体につきましても、送付先として検討したいと思います。

- 広田委員 「余暇の楽しみ」という収蔵品展のテーマに広がりがあるって、世代によっては、実体験に基づいた懐かしさを感じたり、若い人たちは歴史に学ぶことができたり、世代によって扱いの違いはあると思いますが、興味のあるところをまとめてもらえると良いと思います。
- 野田委員 余暇という言葉自体がとても抽象的ですし、展示予定資料の種類が多すぎて、人に勧めることが難しいのではないかと思います。もう少し収蔵品の切り口を狭めつつ、収蔵品以外の物をプラスする。例えば若い世代なら昭和の物でも素敵だと思ったり、撮影が可能な物であればインスタ映えを考えて、今の時代に行きたくなるような、行った人が良かったよと人に勧められるような、テーマを絞った展示を考えた方が良いと思います。こちらから発信しなくてもツイッターやインスタグラムで拡散されて楽しい・楽しくないを判断する時代なので、資料を並べるだけの展示は、今は難しいと思います。
- 広田委員 インスタ映えは入場者数に影響を及ぼすようで、ツイッターのルール上可能かどうか分からないのですが、博物館職員が撮った写真などを載せるなどしても影響力は大きいと思います。切り口は別としてそのような取り組みも考えていただけたらと思います。
- 野田委員 「余暇」だと響かない気がするので、「昭和レトロ」など、スッと頭に入ってきて楽しそうなテーマが良い気がします。
- 事務局 今回、事務局案をたたき台として検討していただいたのですが、当館の収蔵品の中でどこまでできるかという難しさもあります。タイトル自体も含めて、検討の余地がありますので、今後精査したいと思います。
- 橋本委員 古い物を展示して懐かしいと思う世代もいると思いますが、カセットテープも若い世代は「なんだこれ」というような感じでラジカセが売れているような話もあります。展示の中で触れる、動かせるというものを盛り込んでも良いのではと思います。また、かつて大宮にはたくさんの映画館がありました。映画会社ごとに劇場がありました、ということも若い世代は知らないと思います。地図上におとして映画会社名を入れたりしてパンフレットとリンクさせても街の歴史にスポットを当てられるのではと思います。
- 牧野委員 博物館に来ることが余暇の楽しみの1つになると思いますので、触れて楽しむことや実物を見て楽しむことなどを展示していただけると良いのではないかと思います。
- 議長 他にご意見やご質問はございますでしょうか。無いようですので、本日の議事については、これで終了いたします。